



# ŌMIYA NEWS



No.125 2026年 1月29日 JR東労組大宮地本

## 大宮地本主催「2026沖縄平和研修」を開催！！

2026年1月18日～20日で大宮地本主催「2026沖縄平和研修」を開催しました。

研修1日目には、「アブチラガマ」「平和の礎」「魂魄の塔」「ひめゆり平和祈念館」を訪れ、過去の沖縄の歴史を学び、研修2日目には、「辺野古テント村」「キャンプシュワブ」「佐喜真美術館」「嘉数高台公園」「沖縄国際大学」を訪れ、現在の沖縄に触れ、今できることを考え、実践してきました。



## 過去・現在の沖縄を学び、今できることを実践していこう!!



私たちが沖縄研修を終えて間もない1月25日に「沖縄県名護市長選挙」が行われ、米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設を容認する人々の支援を受けた、現職の渡具知武豊氏が3選を果たして勝利しました。私たちは米軍普天間飛行場の辺野古移設に対して、実際に基地建設が進む辺野古海岸の現地に立つことで反対の立場を明確にしてきました。しかし現実には厳しい結果となったことは否めません。

現在もなおウクライナ侵攻やパレスチナ問題等、国家・地域間での戦争・紛争が後を絶ちません。報道によれば、ウクライナに派遣された北朝鮮兵が、手りゅう弾を顔の近くで爆発させて自殺する例が相次いでいることがウクライナ政府当局者と軍関係者の情報で明らかになっています。この現状は、過去の沖縄戦で集団自決を強要された一般住民の歴史を繰り返しているかのようです。

私たちは沖縄平和研修で「軍隊は住民を守らず、むしろ人間を盾にし、国家を守る」という戦争の本質を学ぶことができました。そして昨年の高市首相による台湾有事に関する発言で、日中双方の外務省が抗議しあうなど深刻な事態となっている現状があります。

JR東日本で働く私たちにとって、戦争は決して他人事ではありません。もし台湾有事が起こる事態となった場合、私たちの働くJR東日本も、2003年に成立した有事法制(自衛隊の活動や米軍への支援、住民の避難などを行うための法律)で、指定公共機関となっています。今こそ私たちは仲間と議論を深め、憲法改悪と戦時体制強化を許さず、平和な社会を求めて行動しなくてはなりません。

私たちは「平和・人権・民主主義」を求め、全ての戦争政策に反対し、安心して暮らせる社会を求めて行動しています。未来は私たちの行動にかかっています!仲間と共に「19日行動」や大宮地本主催「平和集会(仮称)」(8月開催予定)に結集し、共にたたかいを創り出そう!



**現地に立つことで感じた過去と現在の沖縄の現状を学び  
自分たちができることを共に考え行動しよう!**